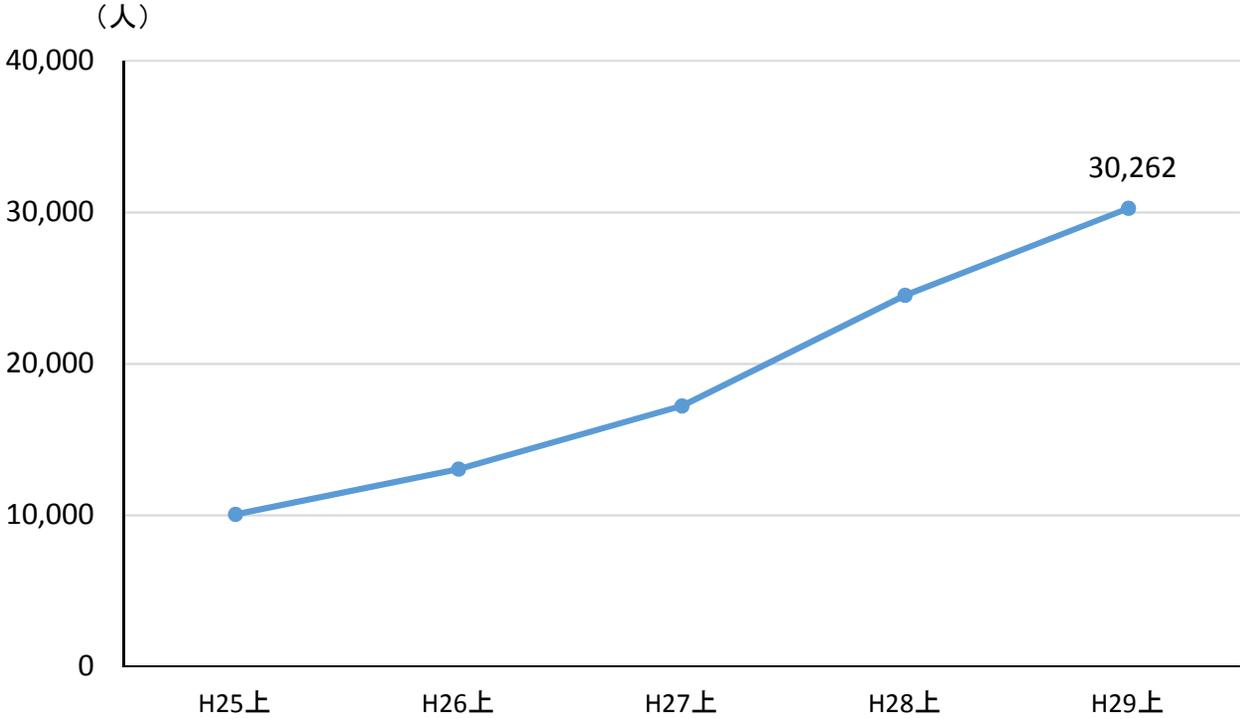


資 料	平成29年上半年における児童虐待の状況について	平成29年11月22日 警 察 庁
<p>1 児童通告数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 警察から児童相談所に通告した児童数は30,262人と上半期統計を取り始めた平成23年以降6年連続で増加。 ○ 態様別では、心理的虐待が約7割、身体的虐待が約2割を占める。 なお、心理的虐待については、その6割強を面前DV（児童が同居する家庭における配偶者等に対する暴力）が占める。 <p style="text-align: right;">資料1・2</p> <p>2 保護児童数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の生命・身体の安全が脅かされる危険があるなどの緊急時や夜間等に警察として保護した児童数は1,787人と平成24年以降5年連続で増加。 <p style="text-align: right;">資料3</p> <p>3 児童虐待事件検挙状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 検挙件数は511件で、検挙人員及び児童虐待事件に係る被害児童数とともに過去最多であった平成28年に比べやや減少。 <p style="text-align: right;">資料4・5・6・7・8</p> <p>4 当面の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 協定の締結等を通じた児童相談所等関係機関との情報共有の徹底。 ○ 現場警察官の対応力向上に資するためのベスト・プラクティスの共有と危険度判断のアセスメントツールの活用促進。 		

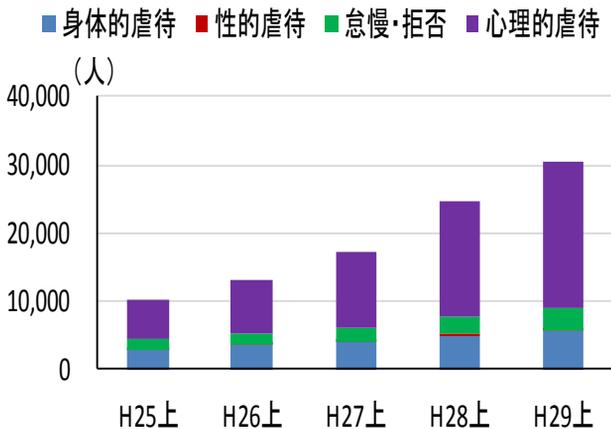
通告児童数の推移



平成29年上半期における通告児童数は、30,262人と平成23年以降6年連続で増加した。

2

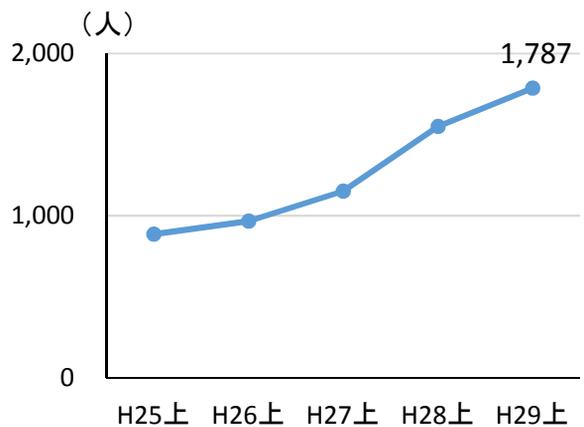
通告児童の態様別の割合



平成29年上半期における通告児童の態様別では、心理的虐待が約7割、身体的虐待が約2割を占める。

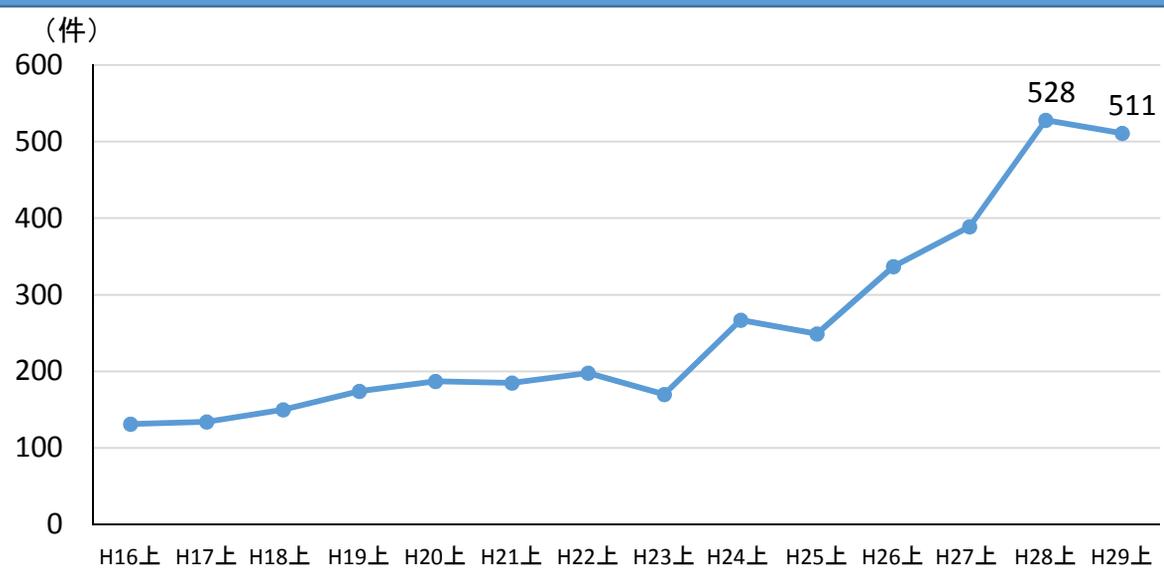
3

保護児童数の推移

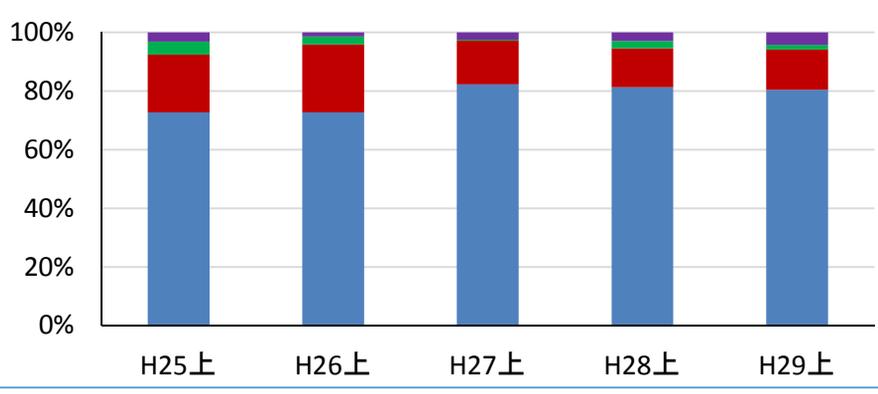


平成29年上半期における保護児童は、1,787人と平成24年以降5年連続で増加した。

検挙件数の推移

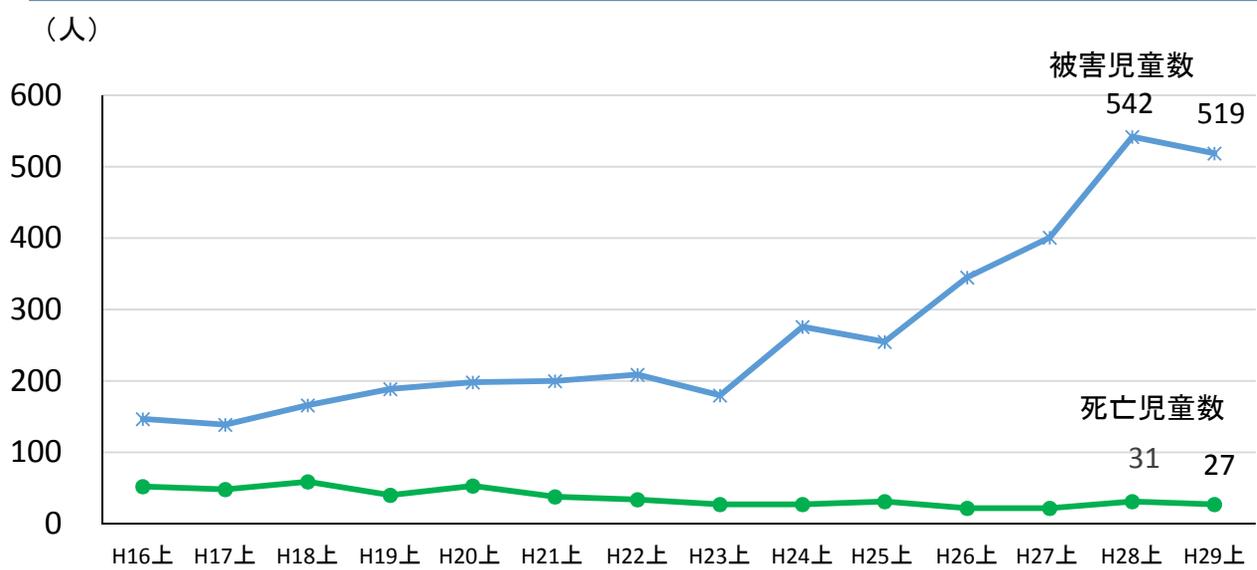


■ 身体的虐待 ■ 性的虐待 ■ 怠慢・拒否 ■ 心理的虐待



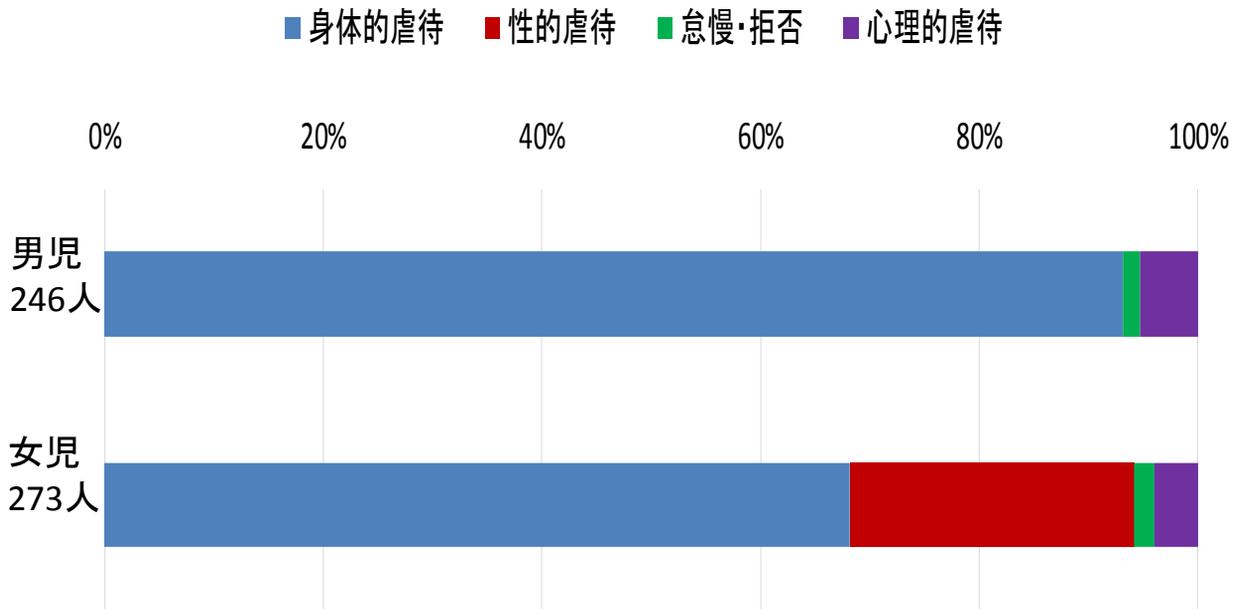
平成29年上半期における検挙件数は、511件と過去最多であった平成28年上半期に比べやや減少した。

被害児童数の推移



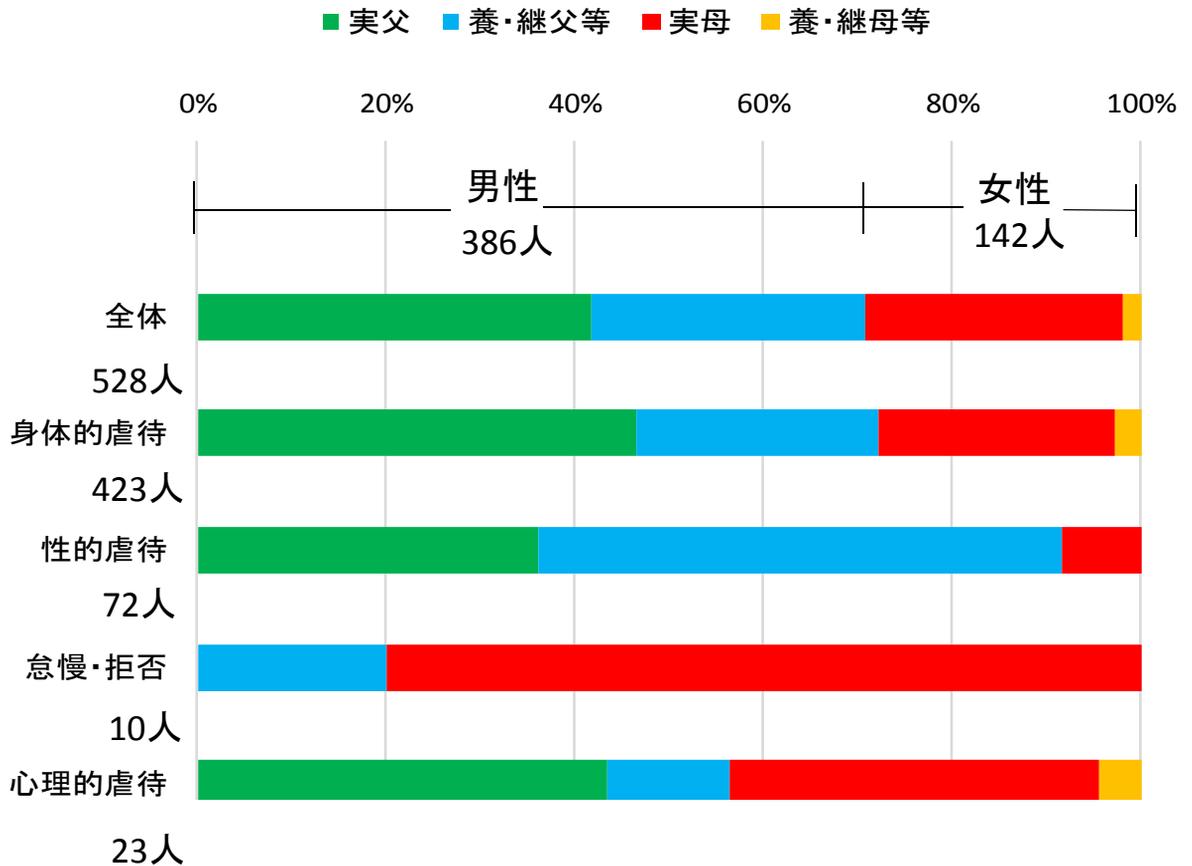
平成29年上半期における被害児童数は、519人と過去最多であった平成28年上半期に比べやや減少した。

被害児童の態様別の割合



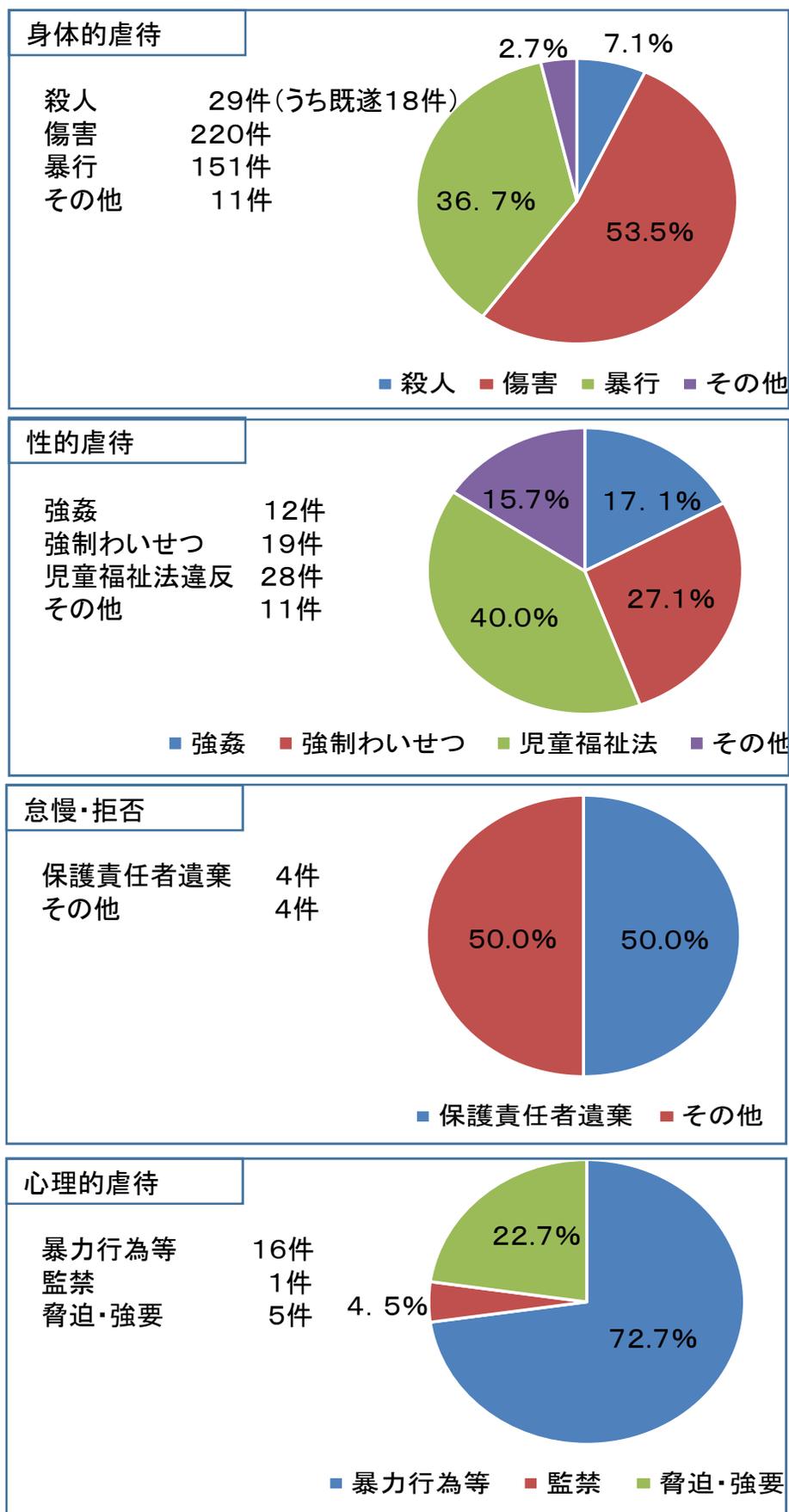
平成29年上半期における被害児童の男女別割合は、男児が246人、女児が273人となった。
男児は身体的虐待が9割強、女児は身体的虐待が約7割、性的虐待が3割弱を占める。

被害児童と加害者との関係(態様別)



平成29年上半期における被害児童と加害者の関係は、男性が386人、女性が142人となった。
態様別割合は、身体的虐待423人で約8割、性的虐待が72人で1割強を占める。

検挙状況(態様別)



身体的虐待では傷害が5割強、性的虐待では児童福祉法違反が約4割、怠慢・拒否では保護責任者遺棄が約5割、心理的虐待では暴力行為等が約7割を占める。